



Q1 貴社で販売されている日配品の商品カテゴリーの年間売上高としてあてはまる選択肢を、カテゴリーごとに1つお選びください。

商品カテゴリー名	商品例	売上高(カテゴリーごとに1つ○)					
		5億円以下	5-10億円以下	10-20億円以下	20-30億円以下	30-70億円以下	70億円超
パン	食パン、菓子パン、惣菜パン、その他パンなど						
豆腐	豆腐、厚揚げ豆腐、油揚げ、がんもなど						
揚げ	揚げかまぼこ、さつま揚げ、イカ巻、ごぼう巻、三角揚げなど						
納豆	糸引き納豆、ひきわり納豆、五斗納豆、寺納豆など						
牛乳	牛乳、成分調整牛乳、加工乳、乳飲料の白物など						
ヨーグルト	ハード/ソフトタイプ、果肉入りなど(ドリンクヨーグルトは除く)						
ヨーグルト飲料	飲むヨーグルト、ドリンクタイプのヨーグルトなど						
洋菓子	シュークリーム、生ケーキなど						
魚肉加工品	蒲鉾、ちくわ、はんぺんなど(魚肉ソーセージを除く)						
惣菜	お弁当、サラダ、揚げ物など						

Q2 Q1の各カテゴリーについて、取引先への確定発注数量連絡のタイミングに最も近いものを、定番品、チラシ特売、新商品ごとに回答ください。(1つに○)

商品カテゴリー名	(1) 定番品(カテゴリーごとに1つに○)					(2) チラシ特売(カテゴリーごとに1つに○)					(3) 新商品(カテゴリーごとに1つに○)				
	店舗納品の					店舗納品の					店舗納品の				
	12時間未満前	12-24時間未満前	24-36時間未満前	36-48時間未満前	48時間以上前	1日未満前	1-2日未満前	2-4日未満前	4-7日未満前	7日以上前	1日未満前	1-2日未満前	2-4日未満前	4-7日未満前	7日以上前
パン															
豆腐															
揚げ															
納豆															
牛乳															
ヨーグルト															
ヨーグルト飲料															
洋菓子															
魚肉加工品															
惣菜															



Q5 貴社で実施されている日配品の食品ロス削減に向けた取り組みについて、**該当するものをすべて**ご回答ください。

自社で実施している日配品の食品ロス削減に向けた取り組み		回答欄
1	自動発注システムの導入	
2	AI活用による需要予測高度化	
3	見切り率決定へのAIの活用	
4	小幅値引（商品が入荷したら、それ以前の入荷品を小幅に値引きして、賞味期限日付順に売れやすくすること）	
5	販売期限の延長	
6	見切り品コーナーの設置	
7	訳ありセール（規格外品、余剰在庫品などの特別販売／常設・非常設問わず）の実施	
8	量り売りの導入	
9	フードシェアリングサービス（売れ残り品を会員客に通知する仕組みなど）の活用	
10	農家等で発生する規格外品の活用（商品開発など）	
11	食品ロスに関する消費者啓発（イベント、セミナー開催、食育活動など）	
12	消費者に対し商品の「てまどり」を促す啓発	
13	値下げ・見切り品の購入を促すための工夫を凝らした独自の店頭資材の展開	
14	季節商品の原則予約販売化	
15	フードドライブを店舗で実施することによる従業員の食品ロス削減意識の啓発	
16	消費者の食品ロス削減意識を促す独自啓発物の展開	

17 上記以外にも該当する取り組みがあればご記入ください。〔自由回答〕

Q6 貴社では、日配品の各カテゴリーの店頭での欠品率を把握していますか。

1	把握していない	→	Q7にお進みください。
2	わからない	→	Q7にお進みください。
3	把握している	→	以下の設問にご回答ください。

↓ ↓ ↓ ↓ ↓

各カテゴリーにおいて、日配品の店舗での欠品率はおよそどの位ですか。(いずれか1つに○)

また欠品率が関係する顧客サービス、店舗オペレーション、食品ロス、納品トラックドライバー不足などを総合的に考えたときに、今後、取引先からの納品リードタイムは短くすべきとお考えでしょうか。それとも長くすることも検討すべきとお考えでしょうか。下記の選択肢から最もあてはまるものをお選びください。(いずれか1つに○)

※欠品の定義は「本来あるべき商品が諸事情により用意されておらず、販売が出来ない状況」とします。

※欠品率は商品数ベースで「ある期間において、商品が欠品している日数や時間がどれくらいあるか？」等とし、貴社が集計された値に基づきご回答ください。

商品カテゴリー名	(1) 日配品の店頭での欠品率 〔カテゴリーごとに1つに○〕								(2) 今後、取引先からの納品リードタイムについて 〔カテゴリーごとに1つに○〕					
	0.5%未満	0.5~1.0%未満	1.0~1.5%未満	1.5~2.0%未満	2.0~2.5%未満	2.5~3.0%未満	3.0%以上	わからない	長くすることを考えている	どちらかといえば長くすることを考えている	どちらともいえない	どちらかどちらかといえば短くすることを考えている	短くすることを考えている	わからない
パン														
豆腐														
揚げ														
納豆														
牛乳														
ヨーグルト														
ヨーグルト飲料														
洋菓子														
魚肉加工品														
惣菜														

上記の(2)の今後の取引先からの納品リードタイムについて、上記のように回答された理由をご記入ください。(自由回答)

納品リードタイムを長くする方針である理由	
納品リードタイムを短くする方針である理由	

Q7 貴社の日配品のフードバンク・子ども食堂などの食品の寄附の状況として**あてはまるものをすべて**お答えください。〔複数回答可〕

<input type="checkbox"/>	1	自社の事業活動で発生する余剰食品を <b>定期的</b> に提供している
<input type="checkbox"/>	2	自社の事業活動で発生する余剰食品を <b>非定期的</b> に提供している
<input type="checkbox"/>	3	賞味期限が近づいた備蓄食品を提供している
<input type="checkbox"/>	4	フードドライブなどによって消費者から自社に集められた余剰食品を提供している
<input type="checkbox"/>	5	仕入先から集めた余剰食品を提供している
<input type="checkbox"/>	6	その他の方法・内容で余剰食品を提供している
<input type="checkbox"/>	7	余剰食品を提供していない

Q8 下記の各カテゴリーにおいて、食品を寄附することがどのくらい廃棄量を削減することにつながっているかをお答えください。〔カテゴリーごとに1つに○〕  
 (例：パンの廃棄量が本来ならば100だったところ、40を寄附した→寄附により廃棄量を40%削減)

商品カテゴリー名	寄附によるカテゴリーごとの廃棄量削減の度合い (= 廃棄になる量の何%を寄附しているか)											
	寄附して いない	0～ 10%	11～ 20%	21～ 30%	31～ 40%	41～ 50%	51～ 60%	61～ 70%	71～ 80%	81～ 90%	91～ 100%	わから ない
パン												
豆腐												
揚げ												
納豆												
牛乳												
ヨーグルト												
ヨーグルト飲料												
洋菓子												
魚肉加工品												
惣菜												

Q9 フードバンクに寄附した食品の費用は、全額を寄付金ではなく、費用とすること（損金参入）ができます。この税制での特例措置を活用されていますか。〔1つに○〕  
 税制の特例措置の詳細は、次のURLの通りです。

(参考リンク：[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/foodbank/pdf/foodbankzeisei.pdf](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/foodbank/pdf/foodbankzeisei.pdf))

<input type="checkbox"/>	1	活用している	→	Q11にお進みください。
<input type="checkbox"/>	2	活用していない	→	Q10をお答えください。
<input type="checkbox"/>	3	わからない	→	Q11にお進みください。

Q10 Q9のフードバンク等への寄附での税制の特例措置を活用していない理由は何でしょうか。〔複数回答可〕

<input type="checkbox"/>	1	知らなかった
<input type="checkbox"/>	2	これまで行っていた棚卸評価額ゼロ（商品廃棄損を計上）の手続きを踏襲しているため
<input type="checkbox"/>	3	メリットが少ない
<input type="checkbox"/>	4	手続きが煩雑

その他に理由がありましたらご記入ください。〔自由回答〕

**Q11** 認定 NPO 法人など特定のフードバンクに対する寄付金については一般の寄付金特別枠で損金算入の上限が設定される税制上の優遇措置があります。

この税制での特例措置を活用していますか。〔1つに○〕

(参考リンク：[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/foodbank/pdf/foodbankzeisei.pdf](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/foodbank/pdf/foodbankzeisei.pdf))

1	活用している	→ Q13にお進みください。
2	活用していない	→ Q12をお答えください。
3	わからない	→ Q13にお進みください。

**Q12** Q11の特例措置を活用していない理由は何でしょうか。〔複数回答可〕

1	知らなかった
2	これまで行っていた棚卸評価額ゼロ（商品廃棄損を計上）の手続きを踏襲しているため
3	メリットが少ない
4	手続きが煩雑
5	該当するフードバンク団体が近隣にはない

その他に理由がありましたらご記入ください。〔自由回答〕

**Q13** フードバンク等に**日配品**を提供することのメリットとして認識しているものをお答えください。〔複数回答可〕

1	食品の廃棄費用を抑制することができる
2	食品ロスの削減に貢献することができる
3	企業イメージを高めることができる
4	困窮者の支援につながる
5	地域との結びつきを強めることができる
6	従業員のモチベーションアップにつながる
7	CSR・サステナビリティの取り組みとして報告・開示しやすい
8	行政や自治体との連携・信頼構築に資する
9	報道・メディア等で取り上げられやすく、広報効果がある

その他にもメリットとして認識していることがあればご記入ください。〔自由回答〕

**Q14** フードバンク等に**日配品**を提供することの障壁となっていることをお答えください。〔複数回答可〕

1	自社の提供可能範囲にフードバンクがない
2	人手が足りない
3	費用がかかる
4	提供可能な食品がない
5	フードバンク側の食品受取条件（数量、温度帯、賞味期限残存期間など）に適合しない
6	食品を提供したいが、フードバンクに関する情報が不足している
7	提供後の品質管理に不安がある
8	提供後に再販等のおそれがある
9	既存流通品とバッティングする
10	ブランド価値が損なわれる
11	事故やクレーム発生時の責任分担が不明確

その他にも障壁となっていることがあればご記入ください。〔自由回答〕

Q15 貴社では、自社日配品プライベートブランドの製造委託先に、プライベートブランドの日配品のフードバンク等への提供を認めていますか。〔1つに○〕

1	製造委託先によるフードバンク等への提供を認めている	→ Q16にお答えください。
2	製造委託先によるフードバンク等への提供を認めていない	→ Q17にお進みください。
3	日配品のプライベートブランド商品の製造委託を行っていない	→ Q18にお進みください。
4	わからない	→ Q18にお進みください。

Q16 自社日配品プライベートブランドの製造委託先によるフードバンクへの提供を認めている理由としてあてはまるものをすべてお選びください。

1	食品ロス削減につながる
2	困窮者支援につながる
3	廃棄処理費用の節減につながる

その他にも理由があればご記入ください。〔自由回答〕

→Q16のご回答後は、Q18へお進みください。

Q17 自社日配品プライベートブランドの製造委託先によるフードバンクへの提供を認めていない理由としてあてはまるものをすべてご回答ください。

1	人手が足りない
2	費用がかかる
3	提供可能な食品がない
4	フードバンク側の食品受取条件（数量、温度帯、賞味期限残存期間など）に適合しない
5	食品を提供したいが、フードバンクに関する情報が不足している
6	提供後の品質管理に不安がある
7	提供後に再販等のおそれがある
8	既存流通品とパッキングする
9	ブランド価値が損なわれる
10	事故やクレーム発生時の責任分担が不明確

その他にも理由があればご記入ください。〔自由回答〕

→Q17のご回答後は、Q18へお進みください。

Q18 今後、貴社では日配品のフードバンク等への食品提供を実施／拡大しますか。〔1つに○〕

1	実施／拡大する
2	どちらかといえば実施／拡大する
3	どちらともいえない
4	どちらかといえば実施／拡大しない
5	実施／拡大しない
6	わからない

7 その他〔具体的に記入してください〕

- Q19** 我が国では、トラック運転者不足のなかで国民生活や産業活動に必要な物流機能を安定的に確保するため、荷主企業や物流事業者が相互協力して物流の改善に取り組むことが求められています。次の項目から、貴社が過去3年間に取り組んでいる取引先への納品条件の見直しによる効率化の取り組みとして該当するものをすべてお答えください。〔複数回答可〕。また、その対象カテゴリーについて取組内容ごとに○をご記入下さい。〔複数回答可〕 下記のカテゴリー以外の日配品での取り組みがあれば、その他の欄にカテゴリー名を記載してください。

取組み内容	テーマ毎に過去3年間に取り組んだ対象のカテゴリーに ○（いくつでも）								その他のカテゴリー 〔具体的に記入〕	過去3年間に 取り組んでいない （該当するカ テゴリーに○）	
	パン	豆腐	揚げ	納豆	牛乳	ヨーグルト	ヨーグルト飲料	洋菓子			魚肉加工品
1 取引先に対する納品期限緩和の提案											
2 取引先への確定発注情報共有の前倒し（リードタイム延長）											
3 取引先への追加電話発注の禁止											
4 取引先への納品物量の平準化											
5 休配日（配送を休む日）の設定											
6 物流付帯業務のサービス化の是正											
7 混雑時を回避するためのセンター着時間の見直し											

上記以外に物流改善に関する取り組みがございましたらご記入ください。〔自由回答〕

- Q20** Q19で「2. 取引先への確定発注情報共有の前倒し（リードタイム延長）」を選択した方（実施している）におたずねします。貴社が日配品の納品リードタイムを延長して緩和的に運用しようと判断された理由としてあてはまるものをお選びください。〔複数回答可〕

1	トラック運転者不足などの状況の改善に貢献したいと考えたから
2	物流費や配送コストの高騰に対応する必要があったから
3	災害・天候等によるリスクに柔軟に対応できる体制を構築したかったから
4	経営トップ・経営幹部により方針あるいは指示が示されたから
5	取引先（メーカー・卸売業など）から提案を受けたから
6	食品ロス・廃棄の増加に影響しないと判断したから
7	売上に影響しないと判断したから
8	お客様に対するサービスレベルの低下に影響しないと判断したから
9	社会的要請に対応するため

上記以外に該当する理由がございましたらご記入ください。〔自由回答〕

- Q21** 貴社の自動発注の導入状況についてあてはまるものをお選びください。〔1つに○〕

1	AIを活用した自動発注（手動修正なし、完全自動）を全店で導入している
2	AIを活用した自動発注（手動修正なし、完全自動）を一部の店舗で導入している
3	AIを活用した自動発注（手動修正あり、セミオート発注）を全店舗で導入している
4	AIを活用した自動発注（手動修正あり、セミオート発注）を一部の店舗で導入している
5	AIを活用していない自動発注（手動修正なし、完全自動）を全店で導入している
6	AIを活用していない自動発注（手動修正なし、完全自動）を一部の店舗で導入している
7	AIを活用していない自動発注（手動修正あり、セミオート発注）を全店舗で導入している
8	AIを活用していない自動発注（手動修正あり、セミオート発注）を一部の店舗で導入している
9	自動発注を行っていない（手動で発注している）

上記以外に該当する場合はご記入ください。〔自由回答〕

**Q22** 弊社では、農林水産省の事業として、食品ロス削減に向けた受発注の改善やフードバンク活用の促進等のための事例創出、実証実験などのサポートを行っています。こうした取り組みへのご協力意向をお教えください。〔複数回答可〕

<input type="checkbox"/>	1	小売業向け商品需要予測サービスを用いた日配品の需要予測向上の効果検証
<input type="checkbox"/>	2	販売期限延長による食品ロス削減の効果検証
<input type="checkbox"/>	3	フードバンク活用の取り組みの効果検証
<input type="checkbox"/>	4	需要予測向上に関する事例情報の提供
<input type="checkbox"/>	5	納品リードタイム延長に関する事例情報の提供
<input type="checkbox"/>	6	納品期限緩和に関する事例情報の提供
<input type="checkbox"/>	7	販売期限延長に関する事例情報の提供
<input type="checkbox"/>	8	フードバンク活用の事例情報の提供

上記以外に希望されるサポート内容がございましたらご記入ください。〔自由回答〕

**Q23** アンケート結果をもとに、下記についての貴社の取り組み状況を「食品ロス削減のための商慣習検討ワーキングチーム」事務局や農林水産省ホームページで公表させていただきたいと思っております。社名公表の可否をお知らせください。難しい場合は理由をお知らせください。なお公表は、具体的な公表内容・方法を貴社に事前に確認・了解いただいた上で行います。

項目	いずれかに○		公表不可の理由（自由回答）
	公表可	公表不可	
A 納品期限の緩和的運用			
B 販売期限の延長（賞味/消費期限当日まで販売している企業を公表）			
C フードバンクへの余剰食品の提供			
D 「てまどり」の実施			
E 物流の改善に関する取り組み			

**Q24** 貴社の食品ロス削減の取組に関するWEBページがある場合、農林水産省等のHPでご紹介いたします。ご希望の場合、下記にURLを記入してください。

**Q25** 下記フォーマットを参考に取組事例を整理いただいた場合も、農林水産省等のHPでご紹介いたします。ご希望の場合、アンケート事務局までメール送付ください。よろしければ下記URLのフォーマットをご活用ください。 現在公表されている事例は下記のURLよりご確認ください。

[https://www.dei.or.jp/research/torikumi\\_format](https://www.dei.or.jp/research/torikumi_format)

[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/syokansyu/jirei2024.html](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/syokansyu/jirei2024.html)

参考：事例フォーマット（A4×1枚を基本とする）

**【〇〇株式会社】食品ロス削減・リサイクルに向けた取組**

<商慣習の見直し（納品期限の緩和、販売期限の延長の取組）>

- ……………（対象品目、実施開始時期などについて記載）。

<食品ロス削減・食品リサイクルの取組>

- ……………（上記の取組以外でPRしたいことを記載）

（上記取組内容の具体的内容を記載）…………

☒・写真

【関連ウェブページ】

○ ○

【お問い合わせ先】

○ ○ 部 ○ ○ 課（03-○○○○-○○○○）

Q26 貴社の日配品部門において、過去1年間に発生した食品ロスの発生量としてもっともあてはまるものを1つお選びください。

1	売上高の0%
2	売上高の0%超~0.1%以下
3	売上高の0.1%超~0.2%以下
4	売上高の0.2%超~0.3%以下
5	売上高の0.3%超~0.4%以下
6	売上高の0.4%超~0.5%以下
7	売上高の0.5%超~1.0%以下
8	売上高の1.0%超~1.5%以下
9	売上高の1.5%超~2.0%以下
10	売上高の2.0%超

Q27 貴社の日配品部門において、過去1年間に発生した食品ロスの主な要因の内訳構成比を数字（単位：%）でご記入ください（合計100%になるようにご記入ください）。

1	需要予測・在庫管理の不適正（過剰発注など）	
2	商品の品質劣化・破損（期限切れ、傷みなど）	
3	値引きや陳列施策の不適正（値引き遅れなど）	
4	納品・取引ルール等の制度的要因（賞味期限ルールの厳格さなど）	
5	消費者・従業員起因（消費者からの返品、取り扱いミスなど）	
6	その他	
合計		0 %

これでアンケートは終了です。ご回答ありがとうございました。